



ドライバーに火災予防を呼びかけ

— 関西消防署平泉分署が街頭啓発活動

春季全国火災予防運動(3月1～7日)に合わせ、一関西消防署平泉分署(菊池賢一分署長)は3月1日、平泉バイパス南口交差点付近など2カ所で街頭啓発活動を展開し、地域住民や観光客に火災予防を呼びかけました。同交差点付近では分署員らが横断幕を掲げ、県PRキャラクターのわんこきょうだい「おもっち」、平泉観光PRキャラクター「きよひらくん」も参加。分署員が信号待ちのドライバーに啓発グッズを配布しました。



ライオンズクラブの平和ポスター・コンテスト

優秀賞など平泉小の6年生10人が入賞

平泉ライオンズクラブ(千葉博昭会長)が町内の小中学生から募集した第35回国際平和ポスター・コンテストに平泉小の6年生10人が入賞し、2月21日に校内で行われた表彰式で千葉会長から賞状を受け取りました。優秀賞に高橋智明さん、千葉陽真さん、若槻ももこさんの作品が選ばれました。若槻さんは、地球の中で女の子がハートを手にする絵を描き「戦争で困難な生活をしている人に平和な生活を送ってほしい」と願いました。



ガイドと一緒に史跡を巡る

平泉など2市1町で「史跡探訪」開催

町は3月2～3日、「平泉の文化遺産」の資産や世界遺産の拡張登録を目指す資産を見学する「ガイドと巡る世界遺産『平泉』史跡探訪」を一関、奥州両市と合同で開催しました。2日は一関市の骨寺村荘園遺跡や町内の達谷窟などを巡り、3日は奥州市の白鳥館遺跡や長者ヶ原廃寺跡などを見学。参加者はガイドの解説を聞きながら散策し、平泉文化の成り立ちやその価値に理解を深めました。

火災予防思想の普及を図る

町消防団が町内全域でパレード展開

町消防団(千葉勇夫団長)は3月5日、全国火災予防運動の一環として、「春の火災予防パレード」を町内全域で実施しました。団員のほか、町婦人消防協力隊、一関西消防署平泉分署などから合わせて約30人が参加。消防車両に分乗して地域を巡回しながら火災予防の呼びかけを行ったほか、分団ごとに一般家庭での防火指導を実施するなど、火災予防思想の普及を図りました。



高齢者の交通事故防止に役立てて

母の会が町に啓発グッズを寄贈

町は2月21日、一関地区交通安全母の会連合会(小森洋子会長)から反射材などの啓発グッズの寄贈を受けました。主に高齢者の交通事故防止のため、交通安全教室や街頭活動などで活用します。同日は小森会長らが役場を訪れ、バンド型の反射材200本やチラシ300枚などを千葉光祉町民福祉課長に手渡しました。千葉課長は「母の会の皆さんと相談しながら、事故防止のため効果的に活用したい」と応じました。

12区自主防災会が受賞

一関市消防本部の優良組織表彰

12区自主防災会(三浦明会長)は日頃の防災への取り組みや災害時の活動が評価され、一関市消防本部の令和4年度優良自主防災組織として表彰を受けました。12区自主防は平成16年に結成。地元PTAと共同での危険箇所の巡回、災害時の避難支援や地震発生時のパトロールなどを行っています。2月22日に受賞を青木町長に報告した三浦会長は「地域の見回りは欠かせない。受賞を今後の活動を推進する契機にしたい」と語ります。



犠牲者の鎮魂と平和など祈念

毛越寺で「3.11平泉浄土のあかり」

東日本大震災の発生から12年となった3月11日、毛越寺で「3.11平泉浄土のあかり」(NPO法人みんなで作る平泉主催)が開かれ、参加者がろうそくに火をともし、震災で犠牲となった人の鎮魂と復興、平和を祈りました。娘2人と訪れた奥州市衣川の佐々木梨沙さんは「震災の年、その後に生まれた娘にも感じてもらえるものがある」と願い、同法人の小野寺郁夫理事長は「震災を風化させないため、今後も継続したい」と話しました。



「東稲山麓地域」に日本農業遺産認定証

申請団体の関係者が出席

農林水産大臣により日本農業遺産への認定を受けた平泉町長島と一関市舞川、奥州市生母各地区の「東稲山麓地域のリスク分散土地利用システム」への日本農業遺産認定証授与式は3月1日、東京都の農林水産省で行われました。申請団体の東稲山麓地域世界農業遺産認定推進協議会(会長・青木町長)の関係者が出席。青木町長が野中厚農林水産副大臣から認定証を受け取りました。